

## 地質57 そうだったのか！霧島山

地質担当 若松 斉昭

3月25日から開催の企画展「そうだったのか！霧島山」では、知っているようで知らなかった霧島山の自然や、霧島山をより楽しむためのアクティビティなど、霧島山の魅力を紹介します。

### 活火山「霧島山」

鹿児島には、日本にある111の活火山のうち、約1割にあたる11の活火山が分布しています。霧島山もそのひとつで、活発な火山活動が続いており、気象庁の常時観測火山に指定されています。活火山というと、近年大規模な噴火を起こした新燃岳や、活発な噴気を上げる硫黄山といった火山体をひとつずつ数えたいくなりますが、高千穂峰や韓国岳など20以上の火山体をまとめてひとつの霧島山火山としています。これは、霧島山を構成するすべての火山体を作ったマグマが地下にある同じマグマだまりから供給され、時代によって別の通り道（火道）を通して地表に噴出し、それぞれの火山体を形成したと考えられるからです。

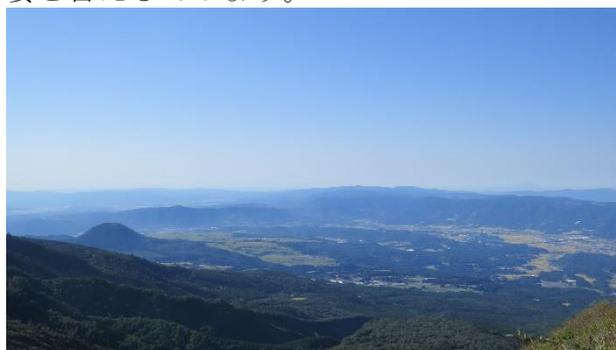


上空から見た霧島山

### 霧島山はいつできた？

霧島山の北側には、鹿児島県湧水町から宮崎県えびの市および小林市にかけて広がる東西約15km、南北約5kmの盆地があります。この凹地を加久藤カルデラと呼びます。この凹地は、約34万年前にそこにあった火山が巨大噴火を起こし、マグマだまりのマグマを一気に噴出させたため、空洞になったマグマだまりに地表の岩石が陥没してできた地形です。その後、カルデラの南縁から再びマグマが噴出して新しい火山群を形成しました。それが現

在の霧島山です。加久藤火砕流以前の火山を古期霧島火山、以降の火山を新期霧島火山と呼びます。私たちが今見ている霧島山は、約34万年前に生まれて成長してきた新しい山の姿と言えるでしょう。



甑岳から見た加久藤カルデラ

### 御鉢の火山活動と霧島神宮

高千穂峰登山道を登り、馬の背と呼ばれる御鉢火口を越えた所には、小さな鳥居と祠があります。これは霧島神宮元宮と呼ばれ、788年の御鉢の噴火（延暦噴火）で焼失するまではここに霧島神宮があったそうです。その後、高千穂河原に遷されますが、このお宮（古宮）も1235年の御鉢の噴火（文暦噴火）で焼失し、現在の場所に再建されました。令和4年には、「霧島神宮本殿、幣殿、拝殿」が国宝に指定されました。



霧島神宮元宮址

企画展「そうだったのか！霧島山」では、このほかにもたくさんの新たな霧島山の魅力をご紹介します。ぜひお越しください。

（写真提供：霧島ジオパーク）